

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	西東京市柳沢5-8-2
園名	やぎさわ保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

どうやって作るの？何ができるの？

<テーマの設定理由>

日頃から砂や泥に触れ、感触あそびを楽しむ姿があるため。泥団子用の土を使用し、土に触れるところから行き、色々な発見ができるようにした。繰り返し、試行錯誤する中で、集中力や達成感、創造性（想像性）を養う。

### 2. 活動スケジュール

1月22日、1月29日、2月5日、2月9日に活動を実施する。

- ・導入として、『どろだんご』の絵本を読み聞かせをする。
- ・黒土、赤土をそれぞれケースに出す。手で触り、感触を楽しむ様子や子どもの反応を見る。
- ・バケツに土と水を入れて、泥や水の入れる量で土の変化を見たり、触ったりする。
- ・手で、泥団子の形を作り、固める。形にしたものをバケツの中にとっておく。
- ・とっておいた泥団子の形や硬さなど状態を見て、さら砂をかけて泥団子の形を整えていく。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### 【準備したもの】

- ・赤土
- ・黒土
- ・さら砂
- ・バケツ
- ・じょうろ
- ・水
- ・土を入れるケース2台

#### 【環境設定】

- ・導入として、絵本で泥団子の作り方などをわかりやすく伝え、興味を持てるようにする。
- ・土を2種類用意し、色や感触を比較できるようにする。
- ・十分に取り組める時間を確保する。
- ・バケツを用意し、自分で作ったものを継続して作れるようにする。

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

- ・絵本『どろだんご』を読み、泥団子とは何かイメージを持つ。
- ・ケースに2種類の土を出し、それぞれの土に触れ、感触を楽しむ。色や感触の違いに気付く。
- ・バケツに土と水を入れ、泥を作っていく。土や泥の量を調整しながら、泥団子の形を作っていく。
- ・形成した泥団子をバケツに入れて、とっておく。
- ・後日、続きを作っていく。さら砂をかけて、表面を綺麗にし、形の調整をしていく。ヒビが入っていたり、乾燥が強く、割れてしまった泥団子を見て、再度作り直すなど、継続して作っていく。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ケースに2種類の土を出すと「うわー！すごーい！」とワクワクした様子で見える。保育者が「これは黒土だよ」「これは赤土だよ」と説明する。「触っていいよ」と促すと、「つめたーい」「色がちがうね」「石ころ入ってたー」と子どもたちから声があがる。「一人1つバケツに、好きな方の土を手で3回いれてごらん」と声をかけると、「黒土がいい！」「赤土がいい！」と選ぶ。「やわらかいね」「ふわふわだね」と友だち同士顔を見合わせて、バケツに土を入れていく。
- ・「次は水道でじょうろに水を入れてきてね」と保育者が声をかける。水をたくさん入れる子は「わーどろどろ」「この土きらーい」「(量が) 少なかったー」と手で感触を味わう。「先生、水おおすぎたー」「水がたりないー」「ぼくは土がたりないー」「(団子に) できない」と言う子に対して、「水の量を調整するといいよ」と保育者が声をかける。「こう？」と保育者に確認しながら慎重に水を入れる子、調整が難しく、たくさん水を入れる子など様々な姿がある。保育者も一緒に作ると、子どもも手でぎゅっと握り、形を作ろうとする姿がある。「まず丸めてー」「ただの土だね」「あ、かたまった」など手で触って感触を楽しむ。
- ・水の量の調整が難しく、泥状になった子は、手ですくってバケツに落ちる様子を楽しむ。
- ・水の量を調整できた子は、「丸まった」と形になったことを嬉しそうに保育者に見せに来る。
- ・片付けの時間になり、バケツに入れて取っておき、雨に当たらない屋根の下においておく。
- ・別日に作った泥団子の様子を見て「かたまってる！」「カチカチ」と触って自分の作った泥団子を確認する。ヒビが割れてしまっているのを見て「割れてる…」「持ったら壊れちゃた」という子もいる。「壊れちゃったから、もうおしまいにする」と言って活動を終える子もいる。「もう一回作りたい」という子もいる。前回の経験を活かし、再度水の量などを考えながら作る様子がある。
- ・保育者が園のさら砂をかけて、余分な砂を落として、手の中で転がす様子を見て「さら砂かけたい！」と子どもたちも数名参加する。保育者の手の動きなどを見て、まねて、繰り返し作る様子がある。「全然ぴかぴかにならない」「もう磨いていい？」「できてきた！」など話ながら、集中してさら砂をかける様子がある。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・園にある砂場の砂と、黒土、赤土の違いを見て触れて感触を味わうことで、心地よさを感じたり、泥に抵抗がある子も、土なら少し触ってみようかなと触れる子もいた。
- ・子どもたちが発した言葉をよく聞き、感じていることや素直な気持ちを捉えることができた。保育者が声をかけすぎず、水の量や土の量を調整したり、自分の手の中で作れる大きさなどを、自分たちで考えたりする中で、子どもたちの中での発見や気づきに繋がっていた。保育者が答えを伝えることは簡単であるが、子どもが自分で考えて見つけた発見や気づきを大切に保育していきたい。
- ・形成して、日を開けて状態を確認すると、色や硬さの変化に気づいたり、ヒビが入っていた、壊れたからまた作ろうとやり直したり、自分で1から作ったものを、継続して作る中で、どうしたら固まるのか、壊れないように作れるか、自分たちで試行錯誤しながら作っていくことで、達成感や、集中力、創造性を育む活動になった。
- ・日程が冬の寒い時期になってしまったので、外遊びの気持ちいい春頃や、どろんこ遊びの延長で行うなど、時期を見直して行いたい。
- ・さら砂をかけるところまで取り組んだが、取っておいた泥団子が割れやすかったため、保存方法などを見直し、次回保育の中で行うときは、ピカピカに磨く段階まで行えると良い。